

ボートレーサー 國分 将太郎 選手

水上バイク競技で世界選手権を制した
國分将太郎選手
ふるさとへの感謝を胸に
本町出身者初のボートレーサーとして
新たな舞台での挑戦が始まる

Profile こくぶん しょうたろう

1994年3月20日生まれ、24歳。町内蟹沢・長浜出身。東京支部所属。登録期：123期。2014年、国内水上バイクレース「JJSBA CHAMPIONSHIP シリーズ戦 A SKI クラス」で年間総合優勝。2016年、米国で開かれた水上バイク世界選手権 SKI クラスで日本人初の優勝。2017年、特別推薦枠でモーターボート養成所に合格し、2018年9月に養成所を修了。趣味はドライブや水上バイクなど。好きな食べ物は肉料理。



Interview

國分将太郎選手に
普段の生活や当面の目標、
レースに対する心構えなどを
聞きました



―水上バイクとボートレースに共通点がありますか？

ボートレーサーになる前に水上バイクの部品を作る会社で働いていたので、ある程度はマシンを組み上げたりしていました。モーターの整備など、これまで経験してきたものとは全く違うものでした。操縦に関してもスピードには慣れていましたが、水上バイクとは異なる世界でした。

―新人レーサーは、普段どのような生活を送っているんですか？

1節のレースが主に4日間または6日間で開催されます。私はデビューしたばかりの新人で格付けが一番下のB2級なので、レースは1ヶ月に1回、多くても2回程度のあっせんになります。

レースがない日はイベントに参加したり、所属する東京都内のレース場が開催していれば、レースの合間に練習をしたりしています。今は同期の選手や東京支部の先輩にいろいろなことを聞きながら、技術向上に励んでいます。

―当面の目標を聞かせてください
新人選手が簡単に勝てる世界ではないので、まずは現在の格付けのB2級から一つ上のB1級に上がれるように頑張りたいです。少しでも多くのレースに出られるようになることが現在の目標です。

小学生からモーター スポーツに親しむ

昨年11月6日、本町出身のボートレーサー、國分将太郎選手が東京のボートレース多摩川でレースデビューを果たしました。

國分選手は小学校3年生からスノーモービルを始め、16歳で船舶免許を取得すると水上バイクのレースにも出場するなど、猪苗代町の自然を生かしたモータースポーツに親しんできました。

専門学校卒業後は、水上バイク関連の仕事に従事しながら水上バイクのレースに参加。2016年に米国で開かれた世界選手権では、日本人初、最年少優勝という快挙を成し遂げました。

狭き門をくぐり抜け ボートレースの世界へ

周囲の支援を受けながら水上バイク競技を続けてきた國分選手。しかし、水上バイク競技で生計を立てていくことの難しさを感じ、進路の岐路に立つたびにボートレーサーへの道を模索していました。

ボートレーサーになるためには、競艇の養成所に入學し、1年間、訓練を受ける必要があります。2017年、水上バイクでの功績

―レースに対する心構えは？

養成所でも最も重要なことの一つとして学ぶことなんです。事故防止に対する意識は常に持っています。6艇でスタートして6艇でゴールすることが基本なので、自分だけでなく、他の選手のことも考えながら安全にレースをすることが大切だと思います。

―けがに対する恐怖心はありますか？

ボートレースはメンタルスポーツとも言われていて、レーサーとして長く続けていくためにも精神的に成長しなければならぬと思います。転覆などのリスクがありますが、恐怖心に打ち勝つことが必要です。

が認められ、特別推薦枠で養成所に合格。同期の第1・2・3期では、1035人の志願者に対して合格者は52人。1年間の厳しい訓練を耐え抜き、修了を迎えたのはわずか24人という狭き門でした。

猪苗代で培った精神力

小学生の時、翁島小自転車クラブに所属していた國分選手。ある日、練習がつかなくなり同級生とともに当時顧問を務めていた古川潔先生に辞めたいと申し出ます。すると古川先生は「君たちがやるな、誰がやるんだ」と激励。國分選手は古川先生の熱意を感じて以来、真剣に練習に取り組むようになりました。「古川先生にはクロスカントリースキーでも熱心に指導していただきました。厳しい養成所の生活でも、最後まで諦めない気持ちはこの頃に培いました」と國分選手は振り返ります。

近所に住んでいた5歳年上の鈴木猛史さんからも影響を受けたという國分選手。鈴木さんが交通事故に遭いながらもひたむきにスキーに挑戦する姿を目の当たりにし、「自分もレースで頑張ろう」という思いを強くしました。

「猪苗代町で育ったからこそ、今の自分があるんです」。ふるさとへの感謝を胸に、國分選手は新たな挑戦に向けて走り出しました。

―地元猪苗代町の人たちにメッセージをお願いします

地元を離れて暮らす中で、改めて猪苗代町の素晴らしさを感じています。猪苗代町で育ち、小さい頃から水上バイクやスノーモービルを経験することができました。今も猪苗代町が大好きです。スキーなどさまざまな活動を通じて、精神面でも鍛えられたと思っています。水上バイクやスノーモービルを続けることができたのは、地元の人たちの支援のおかげです。本当に感謝しています。支えてくれた皆さんへの恩返しのためにも、これからボートレーサーとして活躍できるように頑張ります。機会があれば、猪苗代町を盛り上げるような活動にも参加したいです。

【Message】

翁島小5・6年次当時担任
会津教育事務所
学校教育課

古川 潔 指導主事



将太郎さんは、小学校の自転車競技でも抜群のバランス感覚を持っていましたね。同級生の男子2人と一緒に、自転車クラブを辞めたいと言ってきた時のことを覚えています。私は「自分でやると決めたことを途中で投げ出してしまうと、これからの人生の中でも逃げてしまうことがあるかもしれない。最後までやり遂げることができれば自信を持つことができる」という話をしました。プロの世界で活躍するのは大変なことだと思いますが、これまで支えてくれた両親への感謝の気持ちを忘れずに、自分が志した道を納得できるまでやり遂げてほしいです。